科目ナンバリング	U-LAS01 10007 LJ38						
授業科目名 <英訳>	西洋史Ⅰ Western History I			担当者所属 職名・氏名	非常勤講師 佐々木　博光		
群	人文・社会科学科目群	分野(分類)	歴史・文明(基礎)		使用言語	日本語	
旧群	A群	単位数	2単位	週コマ数	1コマ	授業形態	講義（対面授業科目）
開講年度・開講期	2025・前期	曜時限	火4/火5	配当学年	全回生	対象学生	全学向

[授業の概要・目的]

福沢諭吉は彼の『西洋事情』で、西洋を模範とした国づくりを進めるために、「歴史を読むに若くものなし」といった。爾来わが国の研究者は西洋の歴史書の消化に努めた。しかしこれが仇になった。西洋人が体裁を繕うために自国の歴史を書いていたとしたら、どうなるだろう。日本が西洋の実情をどのように読み違えてきたのかを具体的に説明する。特に誤解の影響が甚大であった教育、経済、社会保障、人的交流、組織原理について詳述する。

[到達目標]

歴史書の行間を読む繊細な能力を身につけ、歴史書とは異なる西洋の実像を理解できるようする。西洋を見る目線の高さを調整して、世界情勢を正しく認識し、そこへの日本の関りについて一定のヴィジョンをもてるようになることを目指す。具体的には、

1.ウェーバー、フーコー、ハーバーマスといった日本でもなじみ深い西洋の学者の所論が説明できること。
2.彼らの議論が実際の西洋の姿とどれぐらい隔たるかを証拠を挙げて説明できること。
3.単なる西洋の受け売りではない世界情勢に関する一定のヴィジョンをもつこと。

[授業計画と内容]

基本的に以下の計画に基づき進めるが、状況に応じて変更することがある。

１．ガイダンス、教員自己紹介、「授業目標」
２．トップダウンとボトムアップ―欧米標準/日本標準―
３．自由・平等・博愛の虚実
４．体裁史観
５．一見お断り社会
６．ハーバーマス公共圏論の虚実
７．口利き社会と実力社会
８. プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神
９. ウェーバー資本主義精神の虚実
10. 資本主義の精神・現在
11. フーコー・監獄の誕生の虚実
12. 慈善と規律化
13. エリート教育論の虚実
14. 究極の大学教育論
15. フィードバック

西洋史Ⅰ(2)へ続く↓↓↓

西洋史Ⅰ(2)

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

授業目標（達成目標）の1〜3の達成度で成績評価を行う。C（合格）となるためには、

・世界情勢に関する一定のヴィジョンを示せる。
・そのヴィジョンを構成する歴史的な背景を因果的に説明できる。
・研究史上の重要な所論、専門用語が大過なく理解できる。

上記の3点を達成することが求められる。成績を評価する手段として、授業への参加度と期末試験を用いる。成績評価に占める比重は、参加度が20%、期末試験が80%とする。

[教科書]

使用しない
授業中に参考資料を配布する。参考文献についても随時指示する。

[参考書等]

（参考書）
ハインツ・シュタイナート『マックス・ヴェーバーに構造的欠陥はあるのか　論破しがたいテーゼ』（ミネルヴァ書房、2021年）ISBN:978-4-623-09207-9（教科書指定はしませんが、参照を促す機会が何度かあると思います。）

[授業外学修（予習・復習）等]

参考書の指示された箇所を読んでおくこと。授業中に紹介する参考文献を適宜あわせて読むこと。

[その他（オフィスアワー等）]

メールアドレス：f21244t@omu.ac.jp

[主要授業科目（学部・学科名）]